



Katube Osamu
勝部修 一関市長

Book 幾山河一瀬島龍三回想録
瀬島 龍三 著

戦後、11年間シベリアに抑留。帰国して伊藤忠商事に23年務めた後、行政改革等に取り組んだ。波瀾万丈の80余年は激動の昭和史の姿でもある。



子供たちに愛される図書館に

子供たちの読書環境を充実させることは私のマニフェストの一つです。

子供たちの読書環境を充実させることは私のマニフェストの一つです。かつて、経済協力開発機構(OECD)が行う国際学習到達度調査(PISA)で、日本の子供たちの読解力は世界の中で低いとされました。上位の北欧諸国と日本の差は読書環境にありました。北欧は地域と家庭の距離が近く、地域ぐるみで本に親しむ文化がありました。読解力はコミュニケーションに重要な要素。ぜひ、一関にも取り入れたい文化だと考えました。

一関藩主の田村の殿様は江戸から学者を呼んで、若者に

学問を学ばせたといわれています。人材の育成が、地域にとって最も重要なことだと知っていたからでしょう。私たちは、このDNAを継承しています。図書館を通じて、建部清庵や大槻文彦に匹敵する偉人が育つ一関市をつくっていきたくです。

一関藩主の田村の殿様は江戸から学者を呼んで、若者に

ILCの実現を目指す一関の子供たちには、世界を視野に入れ、本のある暮らしに親しんでほしいです。本は「どう生きるか」「困難をどう乗り越えるか」を教えてください。いつの時代も、読書から得られるもの大切さは変わりません。



Onodera Atsushi
小野寺篤 一関図書館長

Book 春を背負って

笹本稜平 著
奥秩父の山小屋を舞台に、会社勤めに行き詰まった主人とホームレスと自殺志願者が織りなす山の日々。春の日差しのような読後感に誰もが山に行ってみたくなる。今夏の映画化も楽しみ。



居心地の良い空間をつくる

一関図書館の基本理念「でかけよう、ことばの海へ、知の森へ」は、国語学者大槻文彦が編さんした、国内初の辞書「言海」に由来します。

図書館には、本を貸し出すだけでなく、人が集まり、触れ合う場所(コミュニティ機能)であり、居心地の良い場所(アメニティー機能)であることが求められています。

新一関図書館には、親子でくつろげる児童コーナーやカフェを設けました。新聞や雑誌を増やしました。飲食できる読書テラスやサンルームではWiFiも利用できます。開館時間も、平日は社会人

や高校生も利用できる午後8時に延長しました。また、市内8つの図書館の連携を強化し、サービスの向上を図ります。

各館とも本の貸し借りだけでなく、地域をまたいだ予約、受け取りや、返却が可能です。例えば、一関で予約して室根で受け取り、藤沢に返すことができます。

散歩の途中や、買い物帰りなどに、気軽に足を運んでください。子供にも、大人にも、満足できる空間、短時間でも、長時間でも、利用しやすい環境を目指し、住民のニーズに応える図書館を目指します。

Act.3 豊かな図書感

図書館は、利用する人がそれぞれの感性で、本に親しんだり、学んだりする場所です。また、ゆつくりくつろいだり、多くの人や情報に出会ったり場でもあります。さあ、図書館へ。きっと、あなたが求めている大切なものが見つかるはずです。

あの頃の好奇心は、これからのあなたに続いている



図書館利用者カードを作ると、本の貸し出しだけでなく、図書館のホームページから本を予約することもできます。一関図書館の本にはICタグが付けられているので、自動貸出機を使えば、プライバシーを保護しながら本を借りることも可能。(利用者カードは本人だけ有効です)



開館時間が午後8時まで延長されるのがうれしいです。クラスの友達も開館を楽しみにしています。駅に近くて、利用しやすいので毎日でも寄りたいです。



中川茉莉さん(一関一高3年)
Nakagawa Mari

旧図書館は週2~3回利用していましたが、手狭でした。新図書館は広々。落ち着いてくつろげます。妻と二人、これまで以上に利用したいです。



伊藤隆造さん(77)
Ito Ryuzo

新図書館は、館内が明るくて、広々していますね。読み聞かせ会などのイベントを積極的に開いてほしいです。育児中のお母さんたちと情報交換したいと思います。



伊藤秀之さん(37)、和美さん(37)
洋一さん(2つ)
Ito Hideyuki, Kazumi, Yoichi

時を経て知識は意識に

情報を評価したり、選り出したりする能力は、日々の読書によって養われます。情報が進めば進むほど、多くの情報から必要なものや良質なものを選択する力が求められます。瞬時に情報を得られる現代であればなおさらです。

図書館建設は手段であり、読書を習慣化させるのはあなた自身です。多くの本の中から好奇心が刺激されるものを見つけましょう。例えば、作者に興味を持てば、その作者が書いた別の本が読みたくなり、テーマに興味を持てば、同じテーマを取り上げた別の本が読みたくなるでしょう。

そう、きっかけさえあれば、誰でも本を好きになるのです。

本から得た知識は可能性の種。やがて知識は自ら学び、自らの力で生きる意識として実を成すことでしょう。